

市民アンケートの結果を公表します



市では、「第6次鹿角市総合計画」において、「笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角」を将来都市像として定め、その実現を目指しています。

市民アンケートは、市が導入している行政評価制度の外部評価として、施策の効果と需要を調査・把握するほか、市民の意識や意見などを集約し、今後の施策推進に活用することを目的としています。

満18歳から74歳までの市民700人の方に配付し、480人の方(回収率68・6%)から回答をいただきました。ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

市民アンケートの詳細な結果は、市ホームページで公開しているほか、各図書館でも閲覧できます。

子育て支援の満足度

45.0%

前年を3・3ポイント下回る結果となりましたが、子育て世代および女性の回答率は50%を上回る評価があることから、実際に子育てサービスを利用している世代からは評価を得ていると考えられます。

必要と考える子育て支援の充実については、児童手当支給年齢の引き上げや支給額の増額、保育料や教育費用の助成を望む声が多くありました。現在、多子世帯の保育料の無償化などさまざまな子育て支援サービスを展開しているものの、さらなる経済的支援が望まれています。



公共交通に不便を感じる割合

22.3%

前年から0・9ポイント減少しました。

不便を感じる理由として、「バス、鉄道ともに運行本数が少ない」「土日や祝日の運行が無い」といった意見が多く、乗り換えの不便さも寄せられています。

利用者数の減少に伴い運行本数を縮小してきた経緯もあり、増便は難しい状況にありますが、市内循環バスの運行などにより主要な路線を確保するほか、予約型デマンド運行や地域主体の乗合交通の取り組みを進めるなど、持続可能な公共交通の確保が必要です。

また、利用促進のための情報提供や啓発活動により、市民の関心を高め、地域に必要な公共交通の維持を進めていくことが必要です。

インターネット利用者の割合

77.9%

前年を4・8ポイント上回る結果となり、順調に利用者が増加しています。50代で11・2ポイント、60代で5・6ポイント、70代で12・2ポイント増加しており、年代間の差も縮小傾向にあります。

利用機器では、スマートフォンが最も多い結果となっているほか、前年と比較すると70代を除くすべての年代で、タブレット端末の利用が増加しており、利便性の良い機器の普及が、利用割合の増加に寄与していることがうかがえます。



中心市街地の環境に満足している割合

52.9%

前年より3・8ポイント改善しました。年齢別では、30代が7・1ポイント、50代が7・6ポイント増加した一方で、30代未満では23・1ポイントの減少となっています。

若年層のマイナス評価の理由としては、買い物をする場所や遊ぶ場所の少なさを挙げるものが多くなっていますが、利用しやすい駐車場の少ない、公共交通機関が不便といった交通に関する理由は、年代を問わず例年同様に多くなっています。

中心市街地の満足度を高めるためには、市民のニーズに応えられるような各店舗の魅力向上とともに、交通アクセスの改善が必要です。

男女の地位が平等であると感じている割合

27.3%

前年を1・4ポイント上回っていますが、「男性が優遇されている」「やや男性が優遇されている」と回答した方の割合は62・8%で依然として高い状況が続いています。

また、「平等である」と回答した男女の割合を比較すると、男性が前年度より8・5ポイント増加している一方、女性は3・9ポイント減少しており、男女間の意識に格差が生じていることがうかがえます。

男女の役割に関する固定的な観念を解消し、性別に関わりなく個性や能力を発揮できるように、啓発活動にさらに力を入れていくことが必要です。

1年間で芸術鑑賞に親しんだ割合

41.0%

前年より6・1ポイント上回っており、芸術鑑賞する機会が徐々に増えていることがうかがえます。

しかし、文化の交流館コモツ

1年間にコモツセを利用した割合

61.1%

セで芸術鑑賞をした割合は67・5%と昨年より11・2ポイント減少しています。特に40代で大きく減少しており、親子向けの公演が前年よりも少なかったためと考えられます。

利用者のニーズを把握し、魅力的な芸術鑑賞機会を創出していく必要があります。

前年より5・8ポイント増加しました。例年と同様に、男女別では女性の利用が多く、年代別では30代の利用が最も多い傾向が見られます。また、一度も利用しなかった方の理由として、「用事がない」「どんなイベントをやっているのかわからない」という声が多く、一度も利用しなかった人への興味関心を引き出す取り組みが必要です。

社会活動・地域活動の参加割合

54.8%

前年より1・8ポイント下回りました。年代別で見ると、30歳未満以外のすべての世代で前年より減少しており、いずれの世代も目標値の75%に到達していません。地域活動に参加しなかった理由は、仕事の都合や育児、介護のほか、活動の情報を知らなかったという意見が多く寄せられました。

チャレンジデーやタートルマラソンなどのイベントを継続して開催し、多くの方がスポーツに親しめるよう啓発に努めながら、特に働き盛りの世代の運動実施率を高める対策が必要です。

地域コミュニティの活性化を目指し、多くの世代が活動に参加できるような支援が必要です。

住みぐちに満足している割合

43.1%

前年より8・0ポイント下回る結果となりました。住みよさと感じる理由としては、「自然の豊かさや気候などの環境」「治安や災害への不安の少なさ」などが多くみられました。一方、住みよさと感じない理由としては、「医療や福祉環境への不満」や「買物の不便さ」などが多く挙げられています。

住みごこちは、福祉や雇用、コミュニティなどを含む総合的な指標であり、定住意識の根幹となるものであるため、本市の持つ魅力を十分発揮したまちづくりと計画的な社会基盤の整備を推進し、満足度の向上に努める必要があります。

愛着はふるさとへの誇りを高め、地域を盛り上げる雰囲気醸成や魅力的な地域づくりの礎となることから、鹿角ブランドの取り組みを強化し、愛着を高めていく必要があります。

